サルの行動観察入門

行動観察とは！？

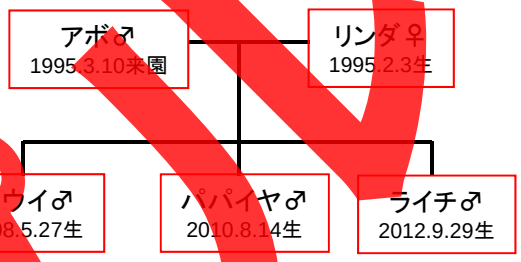
何気ない観察でも様々な行動が観察できますが、手法を決め観察し、記録をとることで、動物の行動を**定量的に知る**ことができます。観察手法には、1個体を決めて追跡観察する方法や、一定時間おきに群れ全頭の行動を記録する方法などがあります。行動観察は、動物の社会生態を知るための手法でもあると同時に、動物園等で飼育環境を改善するためにも活用されています。

観察する種の一般情報・飼育個体情報

【シャマン（フクロテナガザル）】

分類：直鼻亜目　狭鼻下目　ヒト上科　テナガザル科
群れ形態　：　主に単雄単雌
平均群れサイズ　：　3.5頭（両親と子どもから成る群れ）
平均体重：　♂　12～15kg　　♀ 10～11kg

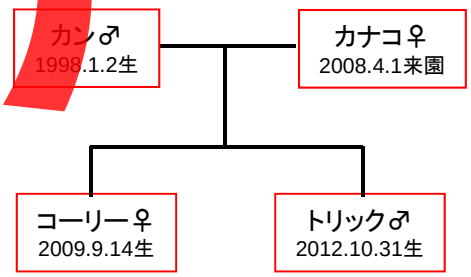
特徴：・テナガザル科の中では最も大型
・のどに大きな袋を持ち、大きく長く続く声で歌う
・手がとても長く、ブラキエーション（腕渡り）で移動する
・主に葉や果実を食べる



【ボウシテナガザル】

分類：直鼻亜目　狭鼻下目　ヒト上科　テナガザル科
群れ形態　：　単雄単雌
平均群れサイズ　：　約4頭（両親と子どもから成る群れ）
平均体重：　♂　7～11kg　　♀ 6～9kg

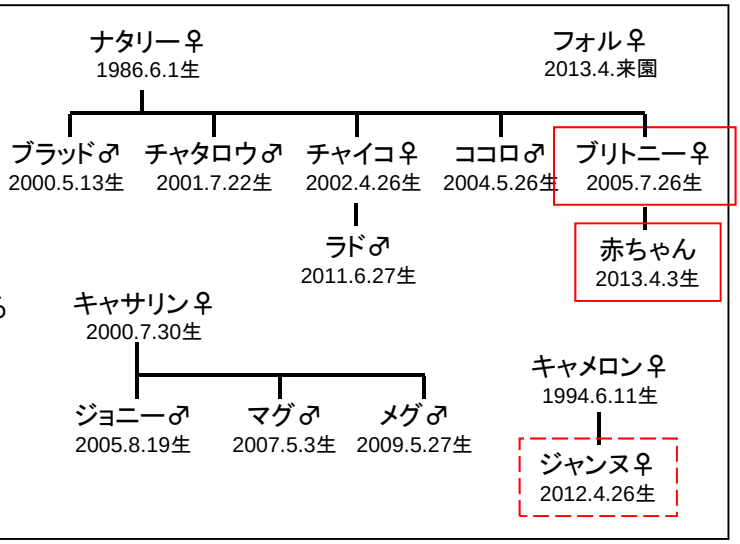
特徴：・類人猿であり、しっぽがない。主にブラキエーションで移動する
・主に果実、花、葉を食べる
・手足や背中の毛は、オスは黒、メスは白である
・毛の色は、新生児は白、コドモ期は黒と変化する



【フサオマキザル】

分類：直鼻亜目　広鼻下目　オマキザル科
群れ形態　：　複雄複雌（雌雄ほぼ同数）
平均群れサイズ　：　8～14頭
平均体重：　♂　1.3～4.8kg　　♀ 1.4～3.4kg

特徴：・器用な尾を持つがクモザルのような尾紋はない
・雑食性で、おもに果実や昆虫を食べる
・石を用いて木の実を割る行動が観察されている
・アメリカでは介護ザルとして活躍している



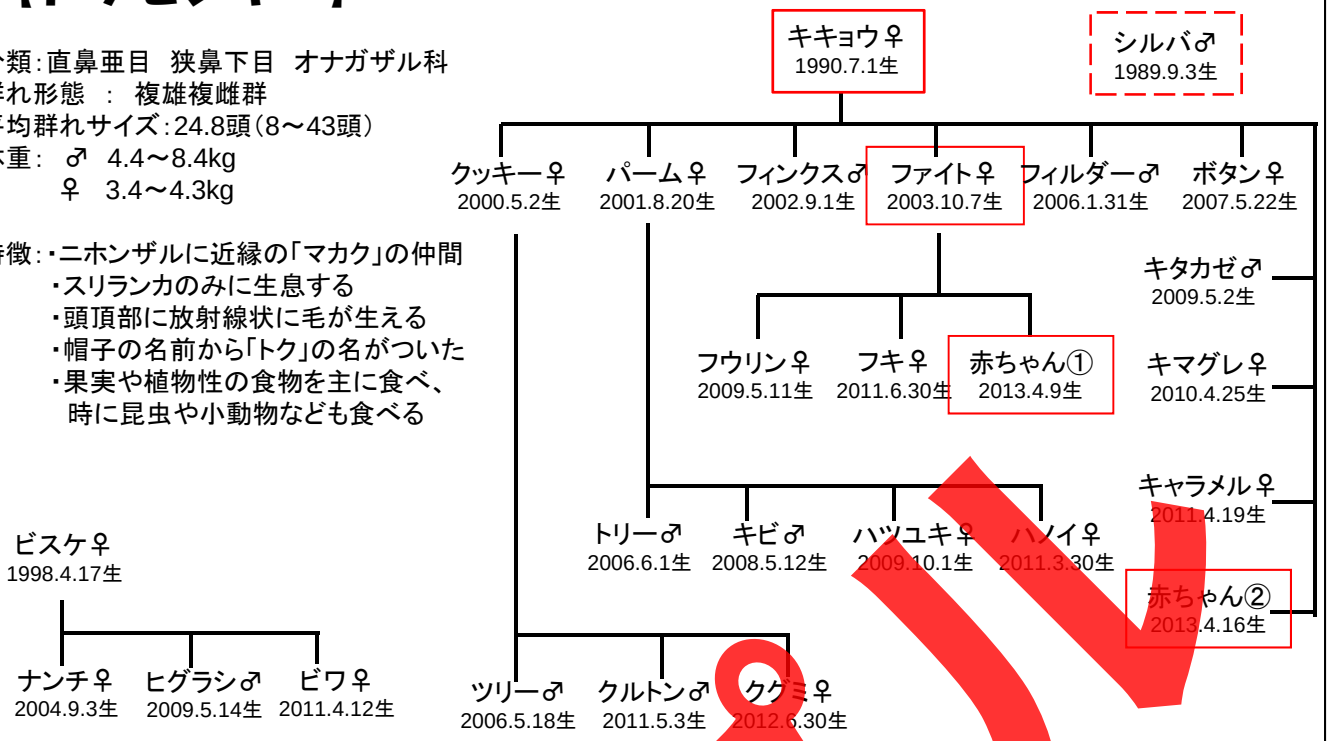
サンプル

日本モンキーセンター

【トクモンキー】

分類：直鼻亜目　狭鼻下目　オナガザル科
群れ形態　：　複雄複雌群
平均群れサイズ：24.8頭（8～43頭）
体重：　♂　4.4～8.4kg
　　♀　3.4～4.3kg

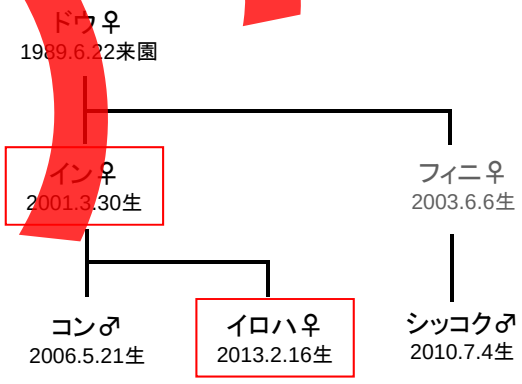
特徴：・ニホンザルに近縁の「マカク」の仲間
・スリランカのみに生息する
・頭頂部に放射線状に毛が生える
・帽子の名前から「トク」の名がついた
・果実や植物性の食物を主に食べ、
時に昆虫や小動物なども食べる



【シシオザル】

分類：直鼻亜目　狭鼻下目　オナガザル上科　オナガザル科
群れ形態　：　単雄複雌など多様
平均群れサイズ　：　4～30頭
平均体重：　♂　5～10kg　　♀　3～6kg

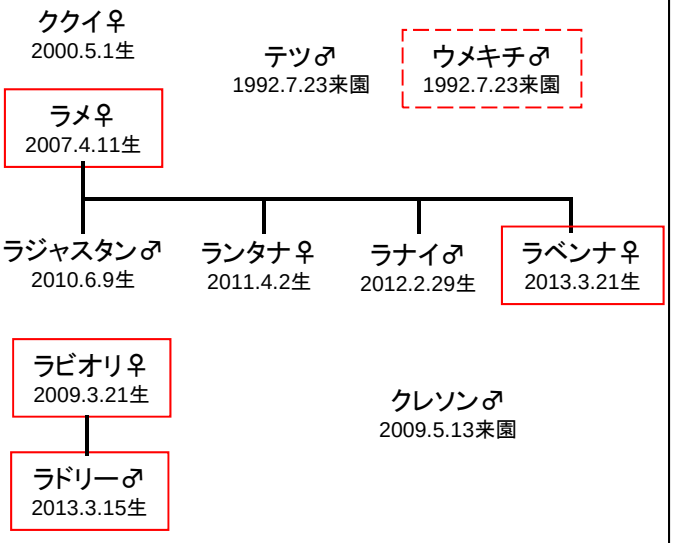
特徴：・尾の形から「シシオ」の名がついた
・単雄複雌または二雄複雌の群れでくらしなわばりは重複する
・果実、種子を中心に多様なものを食べる
・ワシントン条約付属書Ⅰに記載されている国際的な保護動物



【ワオキツネザル】

分類：曲鼻亜目　キツネザル下目　キツネザル科
群れ形態　：　複雄複雌群
群れサイズ　：　5～30頭
平均体重：　♂　2.7kg　　♀　2.7kg

特徴：・白と黒の輪が交互に連なった尾をもつ
名前の「ワオ」は「輪尾」から
・種小名の「catta」ネコの意で、
ネコのような鳴き声から付けられた
・代謝が低く、寒い時には日光浴をして体を温める
・メス優位の複雄複雌の群れをつくる
・オスが群れを移籍する
・前腕の内側に分泌腺があり、匂いづけをする
・長い尾に匂いをつけ振ることでアピールする
・オス間、メス間それぞれに順位があり、
順位は匂いによる闘争やけんかによって変動する
・前肢より後肢が発達しており、跳躍が得意



※現在クイーン群にいる個体のみ表記

日本モンキーセンター